

小林市のために

「30年後を見据えた持続可能な

肥後市政「第2章」

2期目がスタートした肥後正弘市長。これからの4年間を「花を咲かせる躍動の時期」と語り、小林市をより輝くまちにするために、どういった将来像を描き、何に取り組んでいくのか。肥後市政「第2章」への決意を伺いました。

1期目の経験を生かし より満足度の高い市政へ

基本的に、市議会や各団体と協力しながら満足度の高い市政となるよう努めてまいります。

積極的な人口維持対策で目 指す「持続可能な小林市」

4月20日執行の小林市長選挙では、市民の皆さまからのご信任を賜り、2期目の市政運営の重責を担わせていただきます。これからの4年間は、1期目の経験を生かし、花を咲かせる4年間とすべく、具体的な施策の成果が実感できるような市政運営に努めます。市民の皆さまが主役であること、市民総参加、信頼性、透明性、公平・公正を

つい最近、日本創成会議が公表した「消滅可能性都市(※1)」896自治体に、残念ながら小林市もその名がありました。私は、1期目から「30年後を見据えた持続可能なまちづくり」を念頭に事業計画を進めて

まいりましたが、具体的に示されると、改めてその問題に真正面から取り組む必要性を強く感じています。同会議は公表にあたり「この現実を立脚点として、政治・行政・住民が一体となり議論し、知恵を絞る必要がある。いたずらに悲観することはない。未来は変えられる。」と述べていま

情報と思いを共有し、市政 に参画するまちづくりを

具体的施策展開については、今後、広報紙などを通じて、お伝えしてまいります。まず情報の発信と共有について、これまで以上に力を入れてまいり

ます。その上で、市民参画による市民が主役のまちづくりという基本は変えることなく、皆さまの意見を市政に反映させ、今後も地域で支え合う体制の構築を図り、協働のまちづくりを強力に推進します。

地域の特性を生かした 産業振興の推進が鍵

産業の振興は重要課題であり、持続可能な社会づくりの鍵を握る分野であると考えます。地域産業を発展させるため、地

域の特性を活かした施策で、カタチにしてまいります。

愛するふるさととの未来を 市民総参加で切り開く

「小林に住んでよかった、住みたいと思われるまち」、「もつと人が輝くまち」小林市になるように全身全霊を捧げて努めてまいります。一緒に小林市の未来を変えていきたいと思います。それが小林市に住む私たちの務めであり、それが小林市の将来のためにつながると確信しています。

初登庁

初登庁日の4月22日午前9時。市民や職員に迎えられ、登庁した肥後市長。盛大な歓迎に、「輝く小林市をつくりましょう」と一人一人と握手をしながら、市政運営への協力を呼びかけました



肥後市長の6つの重点施策

安心安全な暮らし

地域医療 ●看護学校の開設支援 ●西諸医師会や関係団体との連携強化 ●医師確保と地域医療の充実、**防災** ●商業高校跡地を防災拠点として整備 ●危機管理システムの活用 ●自主防災組織強化

生きがいのある暮らし

子育て ●保育サービスの充実 ●地域ぐるみの子育て支援、**保健・福祉** ●国保税の負担軽減 ●商業高校跡地に老人福祉センター移設、公認グランドゴルフ場の設置など

活気に満ちた暮らし

農畜産 ●農畜産物の生産・加工・流通を一体的に担う体制整備 ●企業誘致と地元雇用の創出 ●家畜の防疫体制強化、**観光** ●ガイドやインストラクターの活動促進 ●体験型観光の推進など

誇りの持てる暮らし

学校教育 ●教育施設の耐震化 ●ICT設備の活用 ●学級副担任制の導入 ●安心安全な給食センター建設、**社会教育** ●自治公民館運営の助成 ●文化財保護の推進 ●文化活動の推進など

便利で賑わいのある暮らし

中心市街地 ●中心市街地活性化計画策定 ●小林駅南北通路開設 ●駅南へ総合保健センター建設、**交通・環境** ●歩道の新設、維持修繕 ●利便性の高い道路交通網の整備 ●大塚原エリア整備など

参加する暮らし

協働のまちづくり ●きずな協働体の設立、活動支援 ●協働により「九州一安心安全なまち小林市」の実現 ●市政への市民参画機会の拡充、**行政改革** ●人件費、物件費などの削減など

ひごまさひろ 肥後正弘

【履歴=平成26年5月1日現在】昭和20年5月4日生まれ。平成18年新小林市収入役、平成19年副市長、平成22年市長就任。平成26年市長再選。座右の銘は「克己復礼」。趣味はテニスとガーデニング。

(※1) 消滅可能性都市

現状と比較し、2040年に「20～39歳の女性人口」が5割以上減少(推計)する市区町村のこと。